

キャッシュレス決済 の 推進とメリット

中京大学 都丸ゼミ

石田 可児 鈴木 萩野 横井

中長期の主なスケジュール（政府目標/主な主要イベント）

- 今後、2025年頃まで、国内外で多くのイベントが予定され、それに伴い訪日客の増加も想定される。⇒ キャッシュレス環境の整備が不可欠。

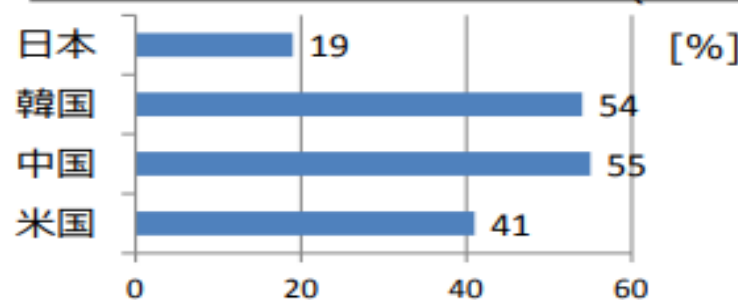
【キャッシュレス関連KPI】

2016年
キャッシュレス決済：20%

未来投資戦略2017に明記

2027年
キャッシュレス決済：40%

キャッシュレス決済比率の各国比較（2015年）



2020年

- ・ 2020年までに、外国人が訪れる主要な商業施設、宿泊施設及び観光スポットにおいて「100%のクレジットカード決済対応」及び「100%の決済端末のIC対応」を実現することに向け、決済端末の設置を働きかける。

2016

2019

2020

2025

2027

ラグビー
ワールドカップ

東京オリンピック・
パラリンピック

大阪博覧会

2016年
訪日客数：
約2400万人

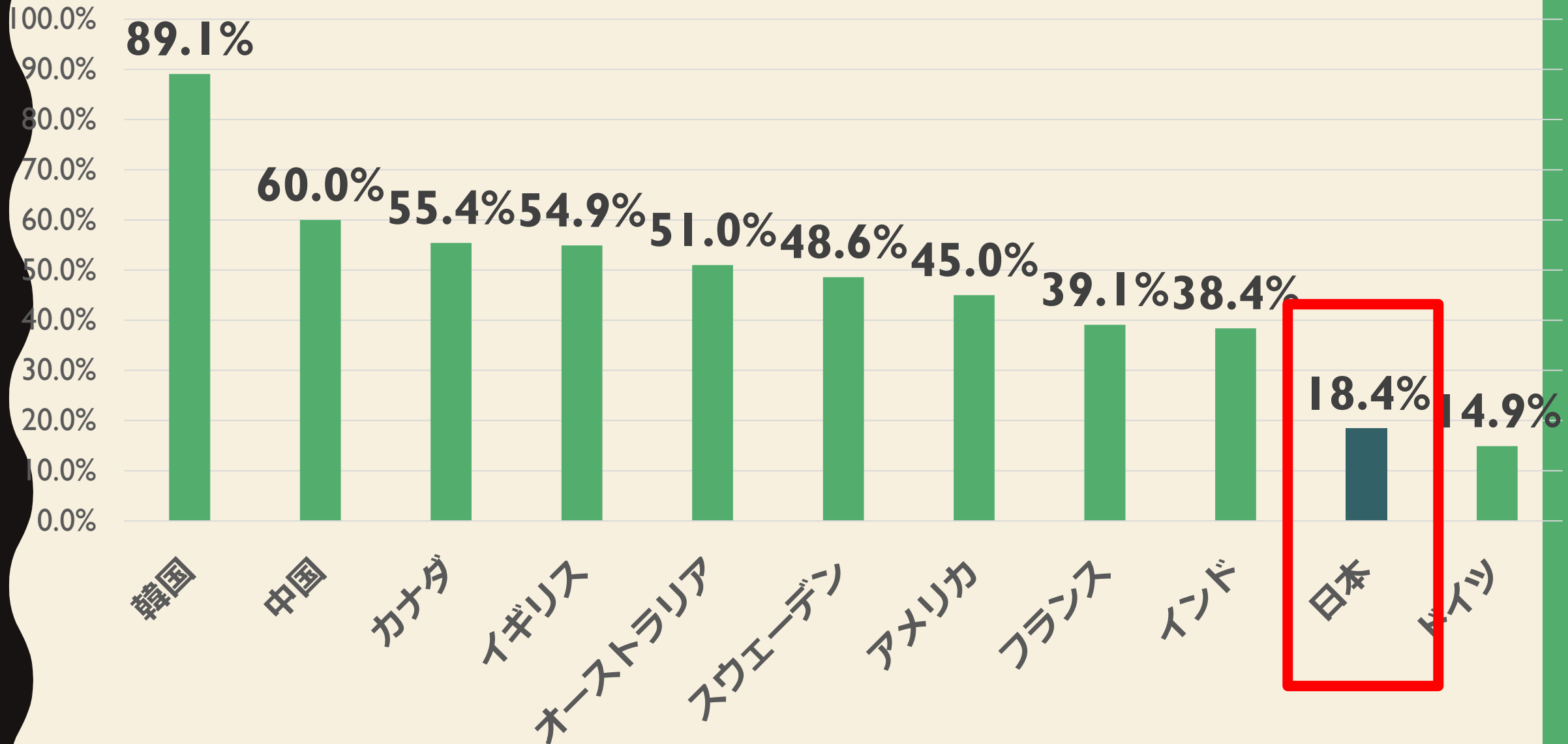
2020年
訪日客数目標：
4000万人

2030年
訪日客数目標：
6000万人

研究動機

- 日本が他国よりもキャッシュレスが遅れている理由とは？
- キャッシュレス推進させることによる
メリット・デメリットって？

各国のキャッシュレス決済比率



日本のキャッシュレスの現状

- キャッシュレス決済比率は**約20%**と低い

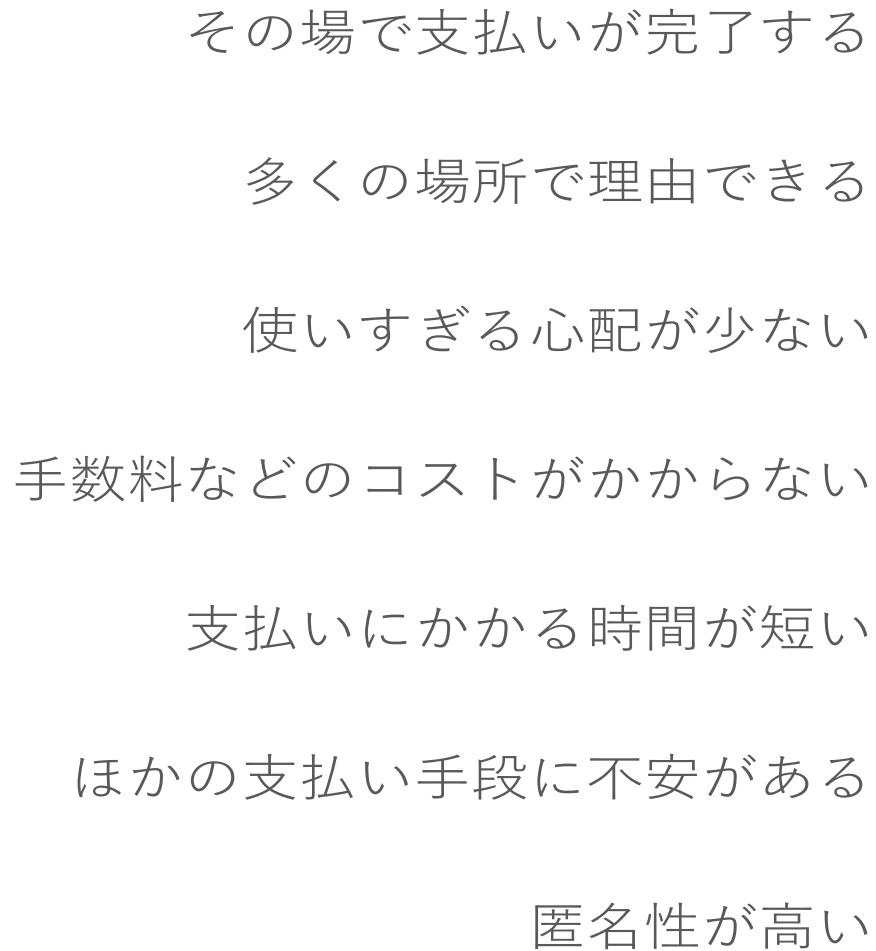
- 信頼できる現金と治安の良さ
- 使いすぎる不安
- 店舗負担（手数料や端末コスト）

- 政府の支援（補助金など）を受けて推進している

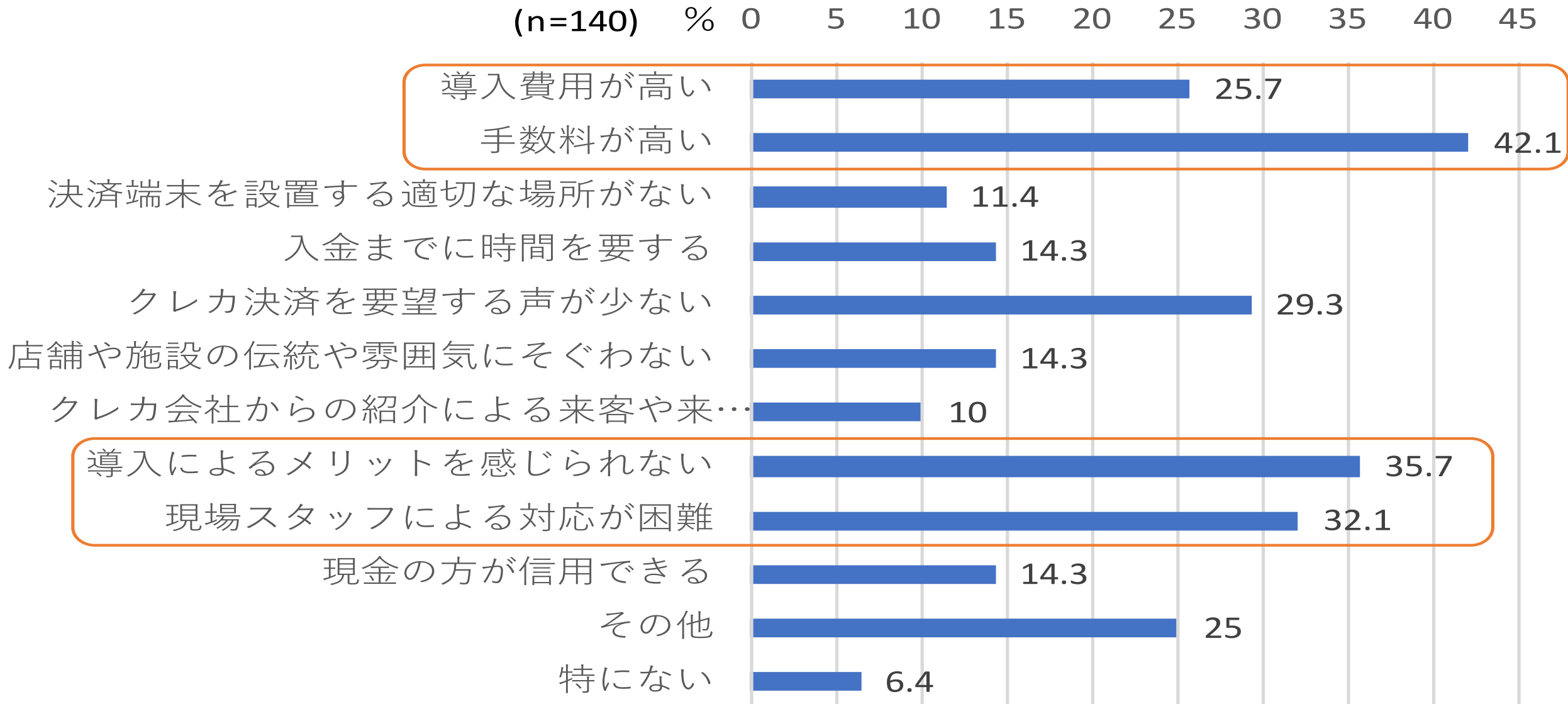
日常生活の支払いに現金を使う理由

(%、複数回答)

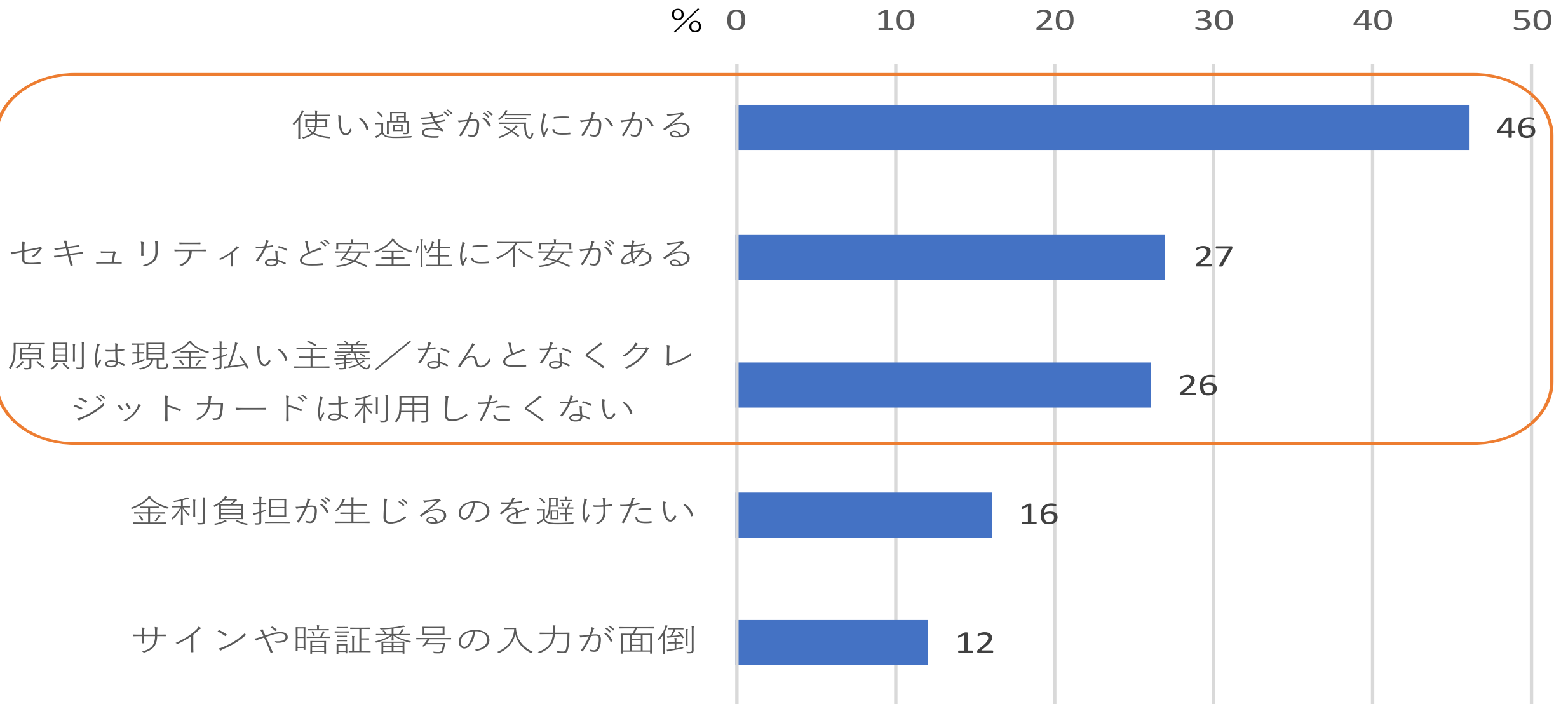
0 10 20 30 40 50 60 70 80



クレジットカードの未対応理由



クレジットカードを利用していない理由



なぜ推奨させたい？

**キャッシュレス化による
メリットがいっぱい！！！！**

キャッシュレス化 の メリット

キャッシュレスの主なメリット

コストの削減

取引の効率化

電子決済データの利用

コスト削減①

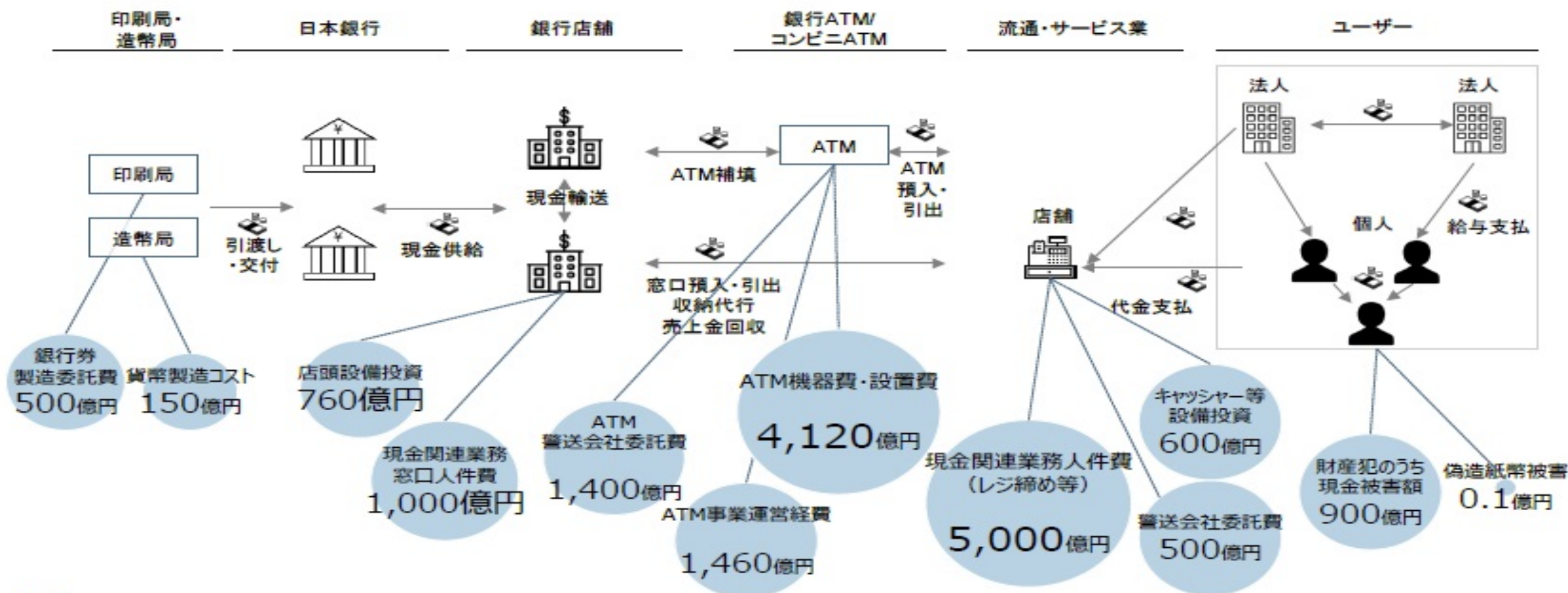
- 人件費
- ATM費用
- 貨幣製造費用



1.6兆円

現金決済インフラを維持するために、年間約1.6兆円を超える直接コストが発生している。

現金決済インフラの直接的な社会コスト(年間)



効率化

- 釣り銭の用意や売り上げ集計の手間が減る
- 財布や現金を持ち歩かなくていい
- 個人間送金や割り勘が簡単

電子決済データの利用

加盟店

集客、販促

店舗戦略、商品
戦略

消費者

消費、サービス
のカスタマイズ

ライフログ

カード会社

与信管理精度の
向上

消費、カード利
用の拡大

公的分野

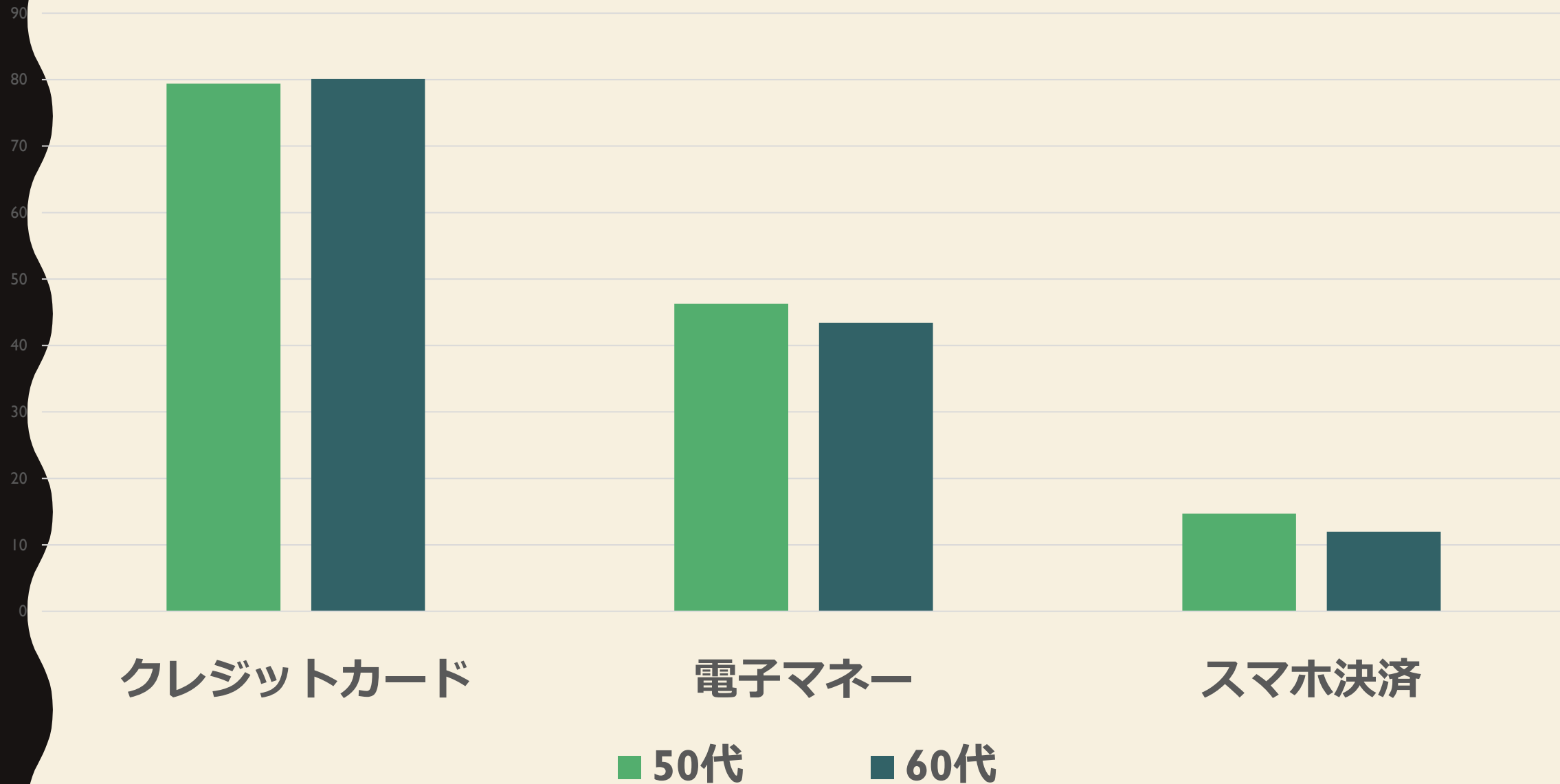
消費統計の作成

消費支出の把握



50~60代の キャッシュレス 事情

高齢者のキャッシュレス利用率



キャッシュレス化 の デメリット

キャッシュレスのデメリット

- ① 加盟店でしか使えない
- ② 操作方法になれる必要がある
- ③ 災害時・端末故障時のリスク
- ④ セキュリティへの不安

① 加盟店でしか使えない

- 政府の後押しによりキャッシュレス対応店舗が増加したが非対応もまだ多い
- 店舗によって「対応／非対応」があり、自分が使いたい決済をどこでも使えるわけではない

① 加盟店でしか使えない

政府主導でここまで動いたが加盟しないという判断をした店舗に導入させることは現実的に厳しい

 別の対策が必要

②操作方法になれる必要がある

QRコード決済など、

操作方法が分からないといった

不安からくる心理的な抵抗がある

②操作方法になれる必要がある

- 使わないと慣れない
- 操作方法是画像付きでインターネットに解説されているものが多く読めば分かるシステムになっている

③災害時・端末故障時のリスク

- 日本で現金はどこでも使える決済方法
- キャッシュレスは災害が発生した場合や、端末が故障・充電が切れた場合、利用できなくなる可能性

③災害時・端末故障時のリスク

- 災害時のリスクについてはキャッシュレスだけでなくあらゆる分野で問題

④セキュリティへの不安

- 昨年「PayPay」を経由したカード決済で、第三者が不正に支払いをしたという事件が発生
- システムへの不安

④セキュリティへの不安

- これからの技術の発展次第
- スキミング補償制度



キャッシュレス 先進国の事例

海外事例

中国

韓国

中国の キャッシュ事情

キャッシュシユレス
比率60%

背景

現金の安全性の低さ、コスト問題が露呈



支付宝・WECHAT PAYがキャッシュレスを加速化

中国の決済事情①

I 現金の安全性

世界有数の偽札国家

例：100枚の紙幣のうち5~6枚が偽札

あるバス会社の切符売り場だけで2年間で700万円分の
偽コイン

II コスト問題

人口約14億人→貨幣の製造・流通に莫大なコストがかかる

中国の決済事情②

支付宝（アリペイ）の登場



- QR・バーコード決済
- オンラインショッピングに対する支払サービス
- 2019年10月時点の世界ユーザー12億人

金融サービス

-  オープンな信用情報
-  後払いサービス
-  少額投資
-  資産運用
-  少額ローン
-  保険

ソーシャルツール

-  おねだり
-  お年玉
-  友人



200万を超える加盟店の情報

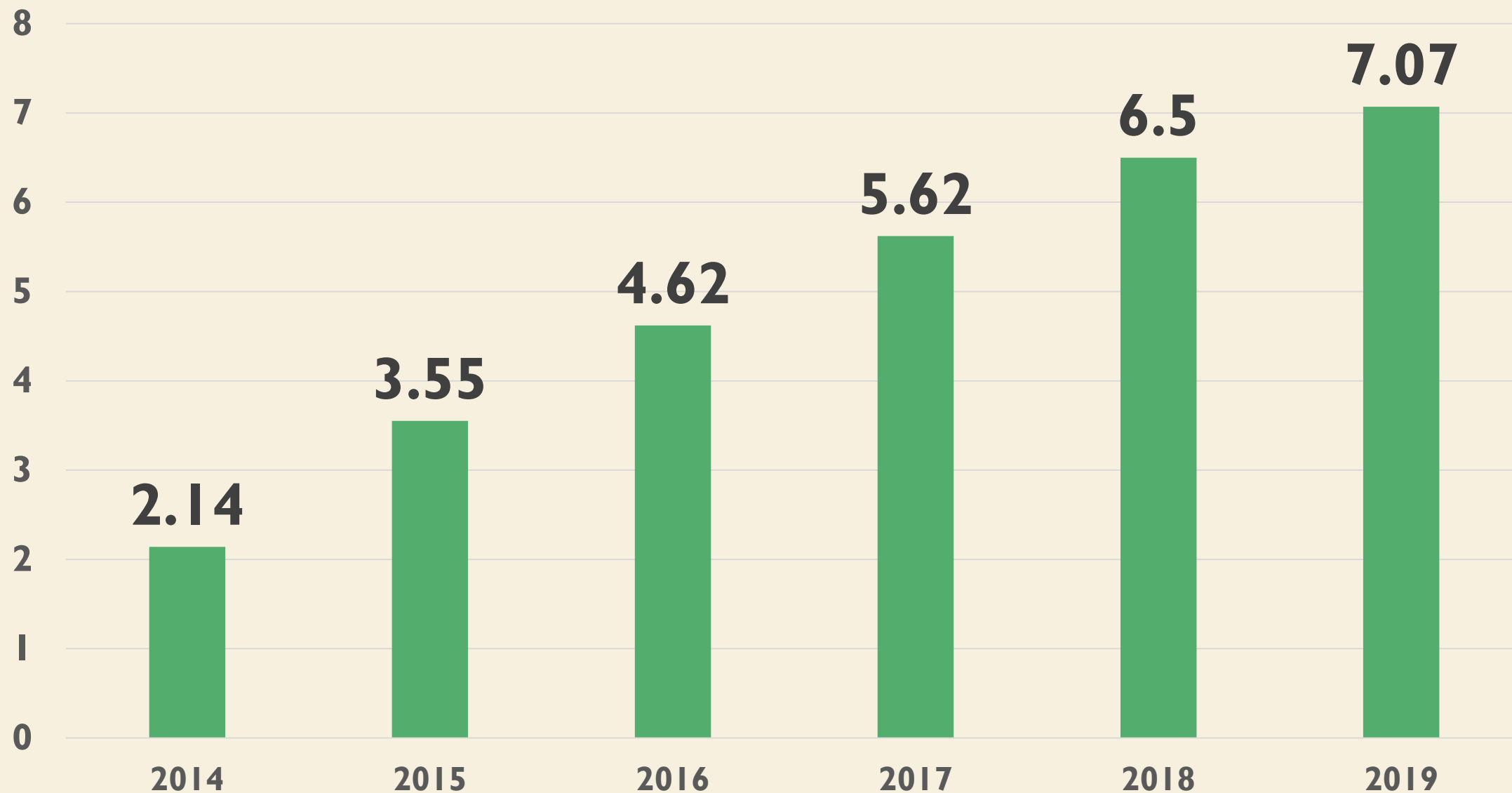
-  コウバイ (Discover)
-  レストラン予約
-  トラベル&レジャー
-  エンタメ
-  お買い物

生活サービス

-  携帯料金支払
-  振込
-  公共料金支払
-  地方自治体
-  映画チケット
-  割り勘

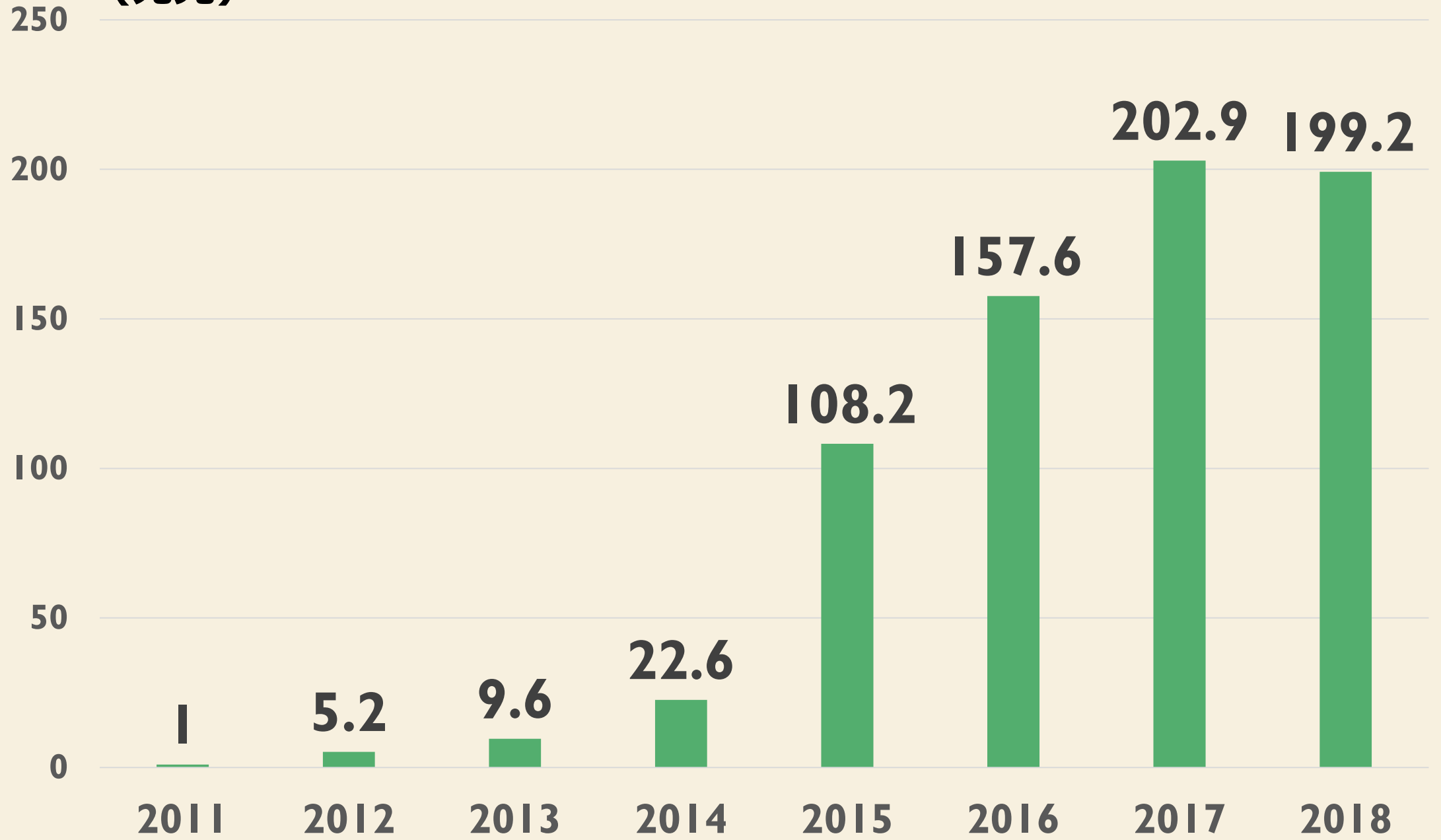
モバイル決済のユーザー数推移

(億人)

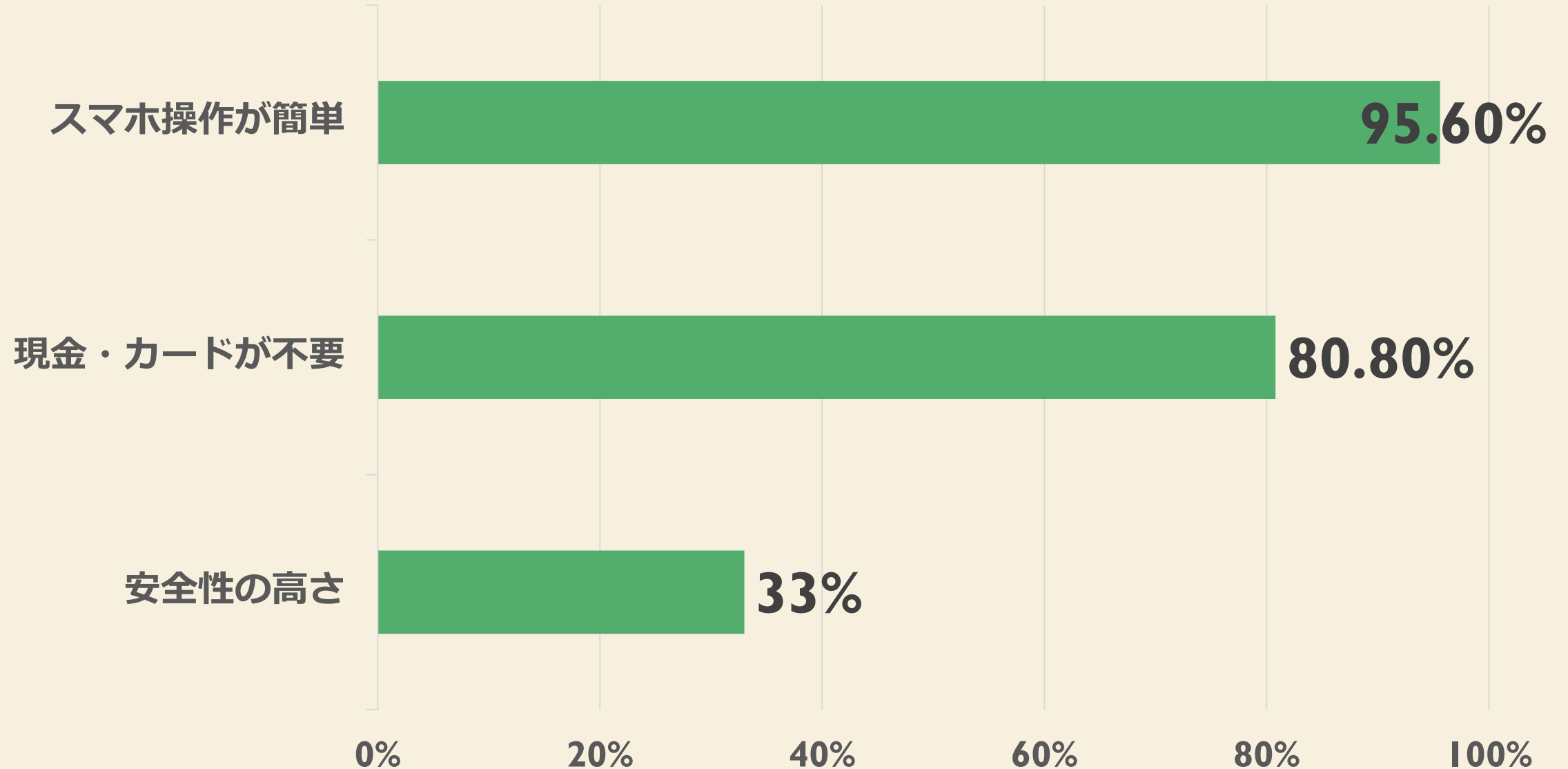


モバイル決済の取扱金額推移

(兆円)



モバイル決済利用理由



QR・モバイル決済にすることによって



決済方法がシンプル



決済手数料が平均0～0.6%の低さ



コストの低さ



しかし問題
もある . . .

モバイル決済の欠点

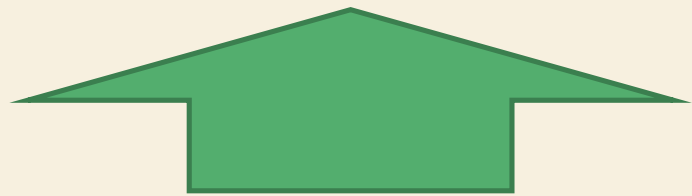
- **セキュリティ**への不安視
- 金融機関と第三者決済事情社の仲介に入り
安全な取引を行う機関の登場



新たな事業 への展開

020マーケティング

- Online to Offline の略語
- オフラインユーザーへの購買行動を誘導
- 情報分析による集客力UPや販売促進
- 近年ではOMOが浸透



ビックデータの活用



020マーケティングの例

- フードデリバリーのアプリ
- シェアサイクル
- シェアモバイルバッテリー

etc.

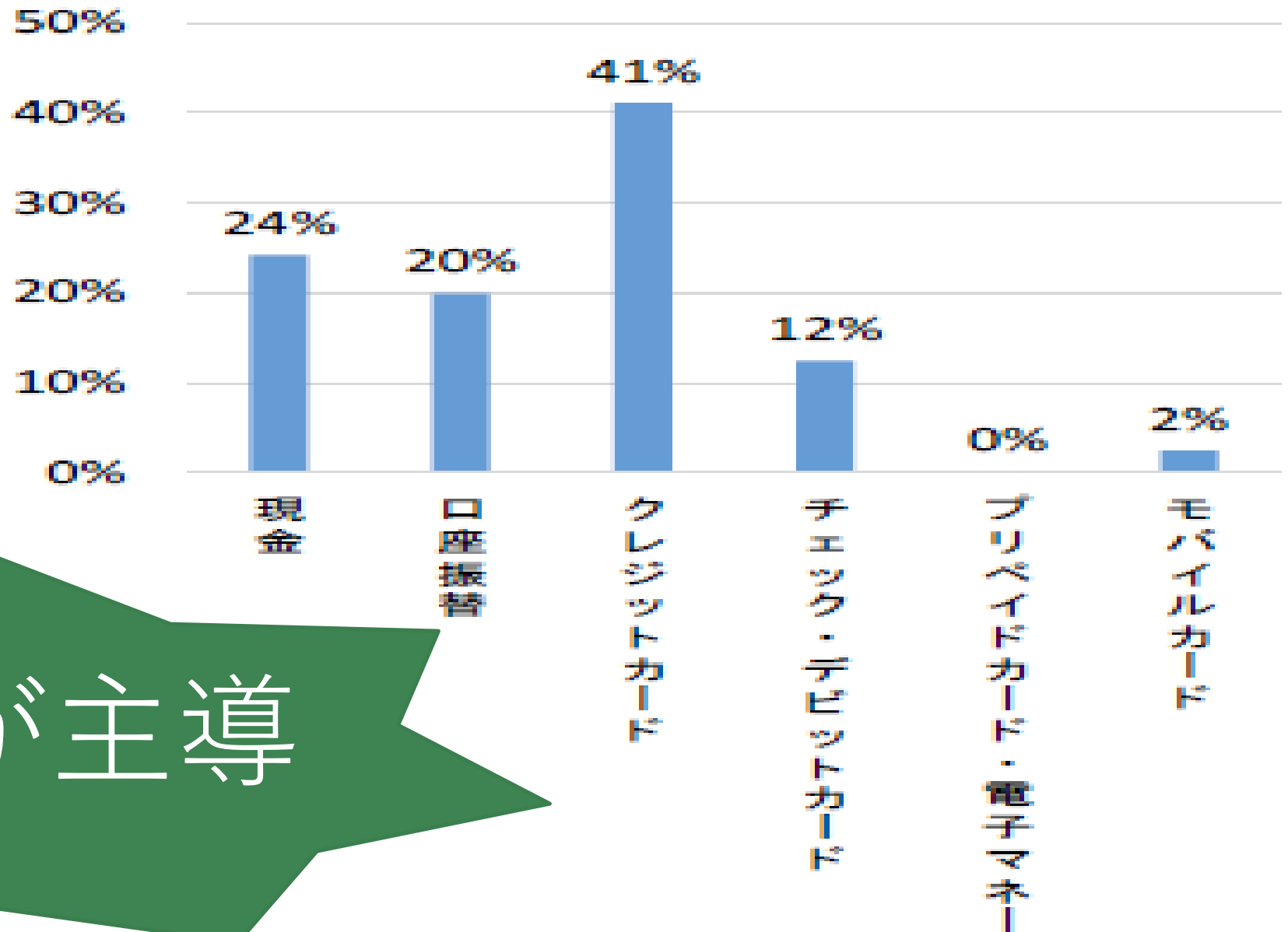
韓国の キャッシュレス事情



韓国キャッシュレス事情

- 韓国はキャッシュレス率
- **89.1%**
- クレジットカードが**41%**と最も

利用金額



政府が主導

韓国クレジットカード推進理由

- 韓国は1997年にアジア通貨危機で、経済を立て直す必要に迫られた。そこで**個人消費**を拡大するため。
- 小売店の**脱税対策**として、一定以上の売上があるお店には利用記録がしっかり残るクレジットカード導入を義務付けた。

韓国のクレジットカードの促進 政策①

〈所得控除〉

年間クレジットカード利用額の20%の所得控
除（上限30万円）

韓国クレジットカードの促進政策②

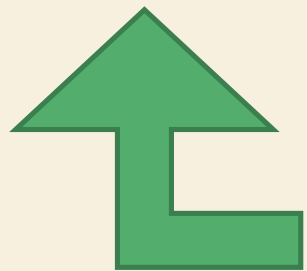
〈宝くじの権利付与〉

クレジットカード利用控えに付けられた番号を対象に
毎月1回、賞金が当たる抽選が実施される制度

(1,000円以上利用で毎月行われる当選金1億8千万円の
宝くじ参加権の付与)

韓国のクレジットカードの促進政策③

店舗でのクレジットカードの取り扱いづけ
義務



年商240万円以上の店舗が対象

施策の結果

1999年から2002年にかけて、
クレジットカード発行枚数は**2.7**倍、
クレジットカード利用金額は**6.9**倍に
急拡大した



キャッシュレス 普及案

日本の普及案

- ① 政府の介入
- ② デビットカードの認知度拡大・勧め
- ③ モバイル決済の普及
- ④ 新たな決済サービス商品

政府の介入

手数料を企業規模
によって定める

所得控除

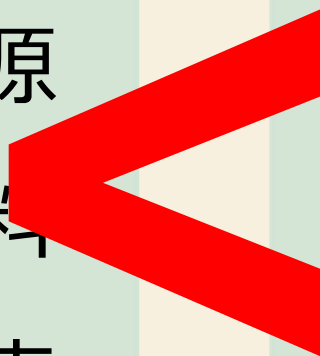
加盟店側にかかる手数料を企業規模によって定める

デメリット

- カード会社は収入源の一つである手数料の利益が減ってしまう

メリット

- 顧客拡大・データの増大によって新たなビジネス拡大・利益UPにつながる

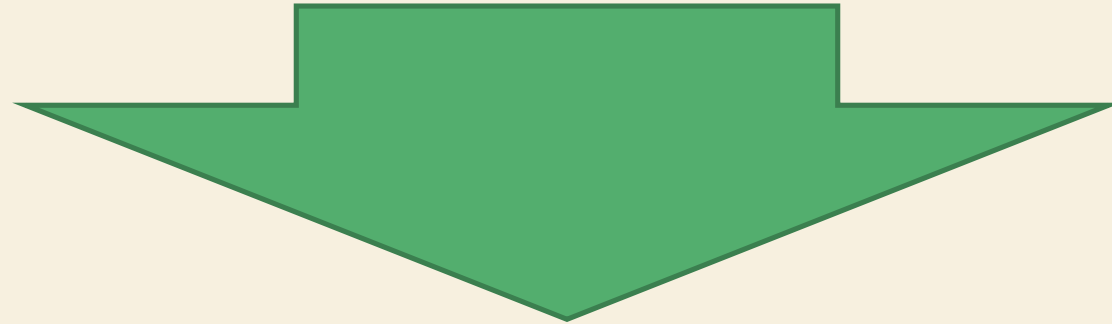


所得控除

- お得感により利用率の上昇が見込める
- 所得が控除されるため個人消費の増加が見込める

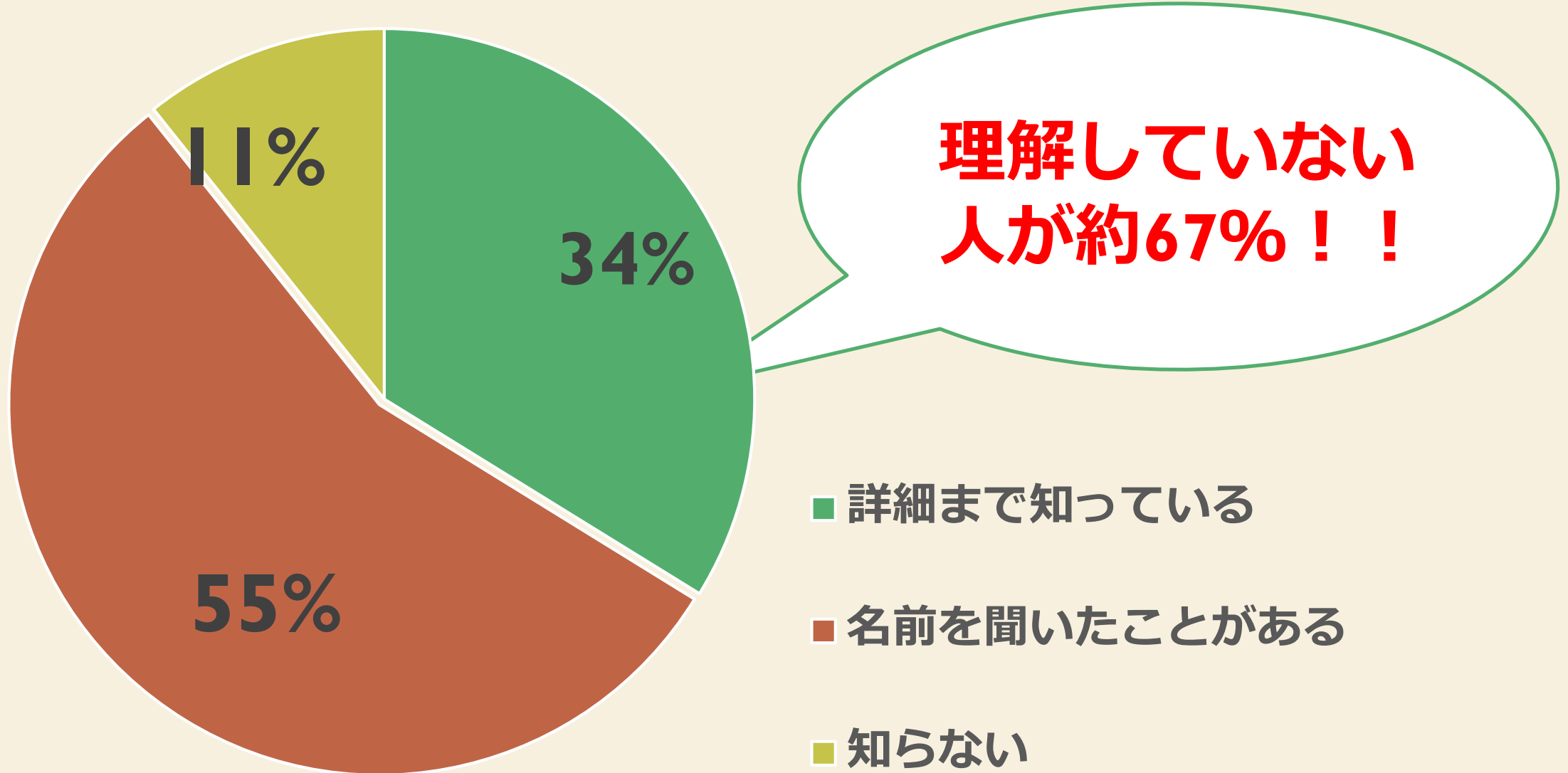
②デビットカードの認知度拡大と勧め

「使いすぎてしまう不安」を持っている人が多い

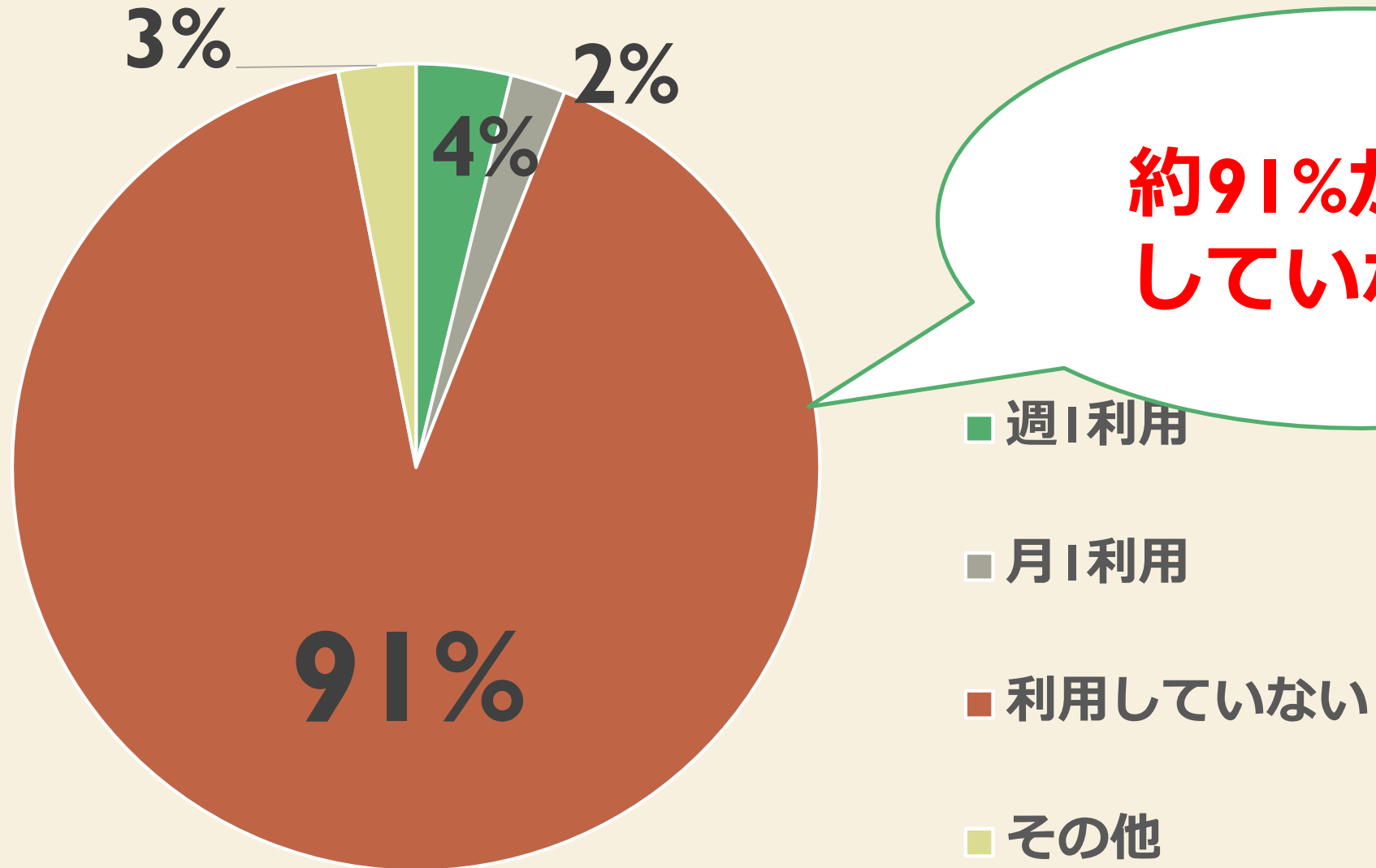


デビットカードであれば使いすぎる心配が少ない

デビットカード認知度



デビットカード利用率



デビットカードを勧めていくために

- ・各カード会社・銀行でデビットカードの

説明・紹介をしていく

- ・SNSの利用

③QRコード決済の普及

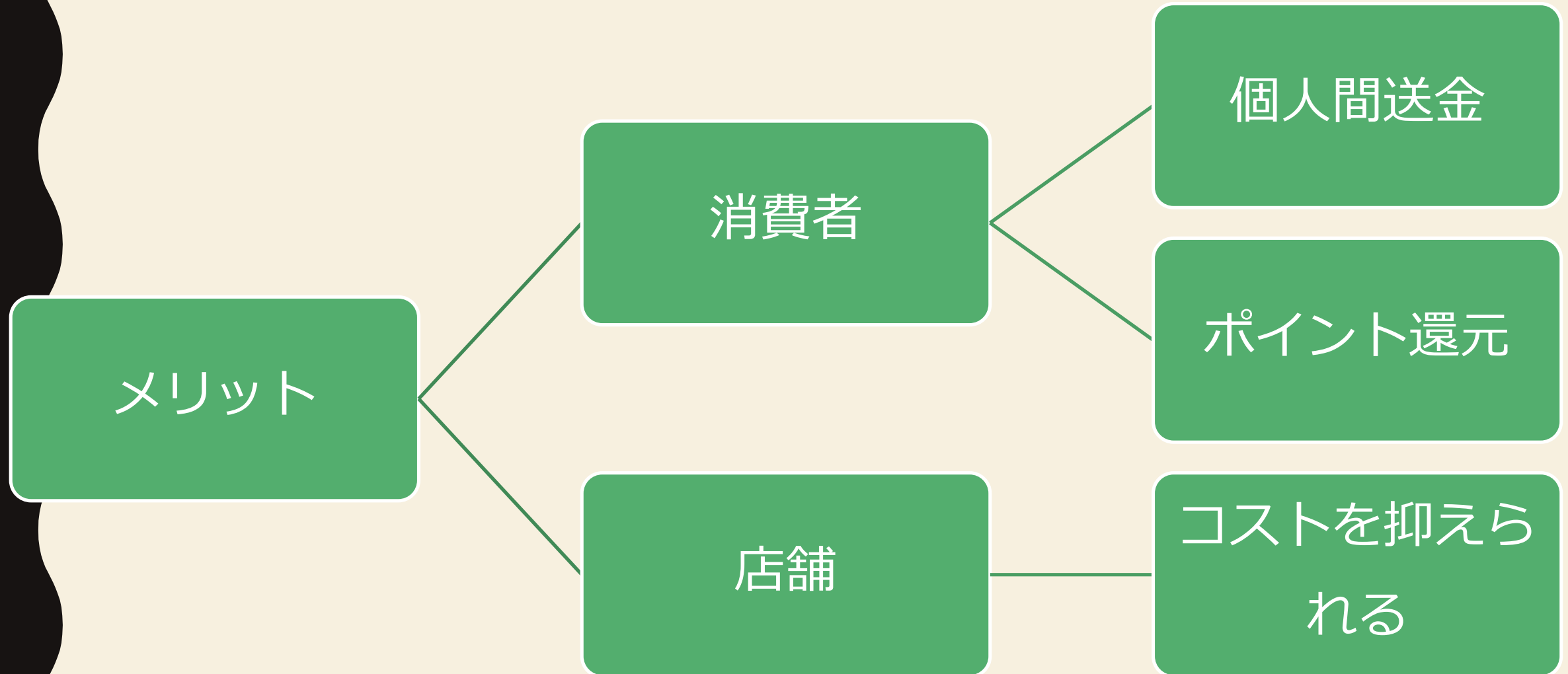
初期費用

- ・ ユーザースキャン方式の場合、完全無料の導入が可能
- ・ ストアスキャン方式の場合、アプリや専用端末が必要

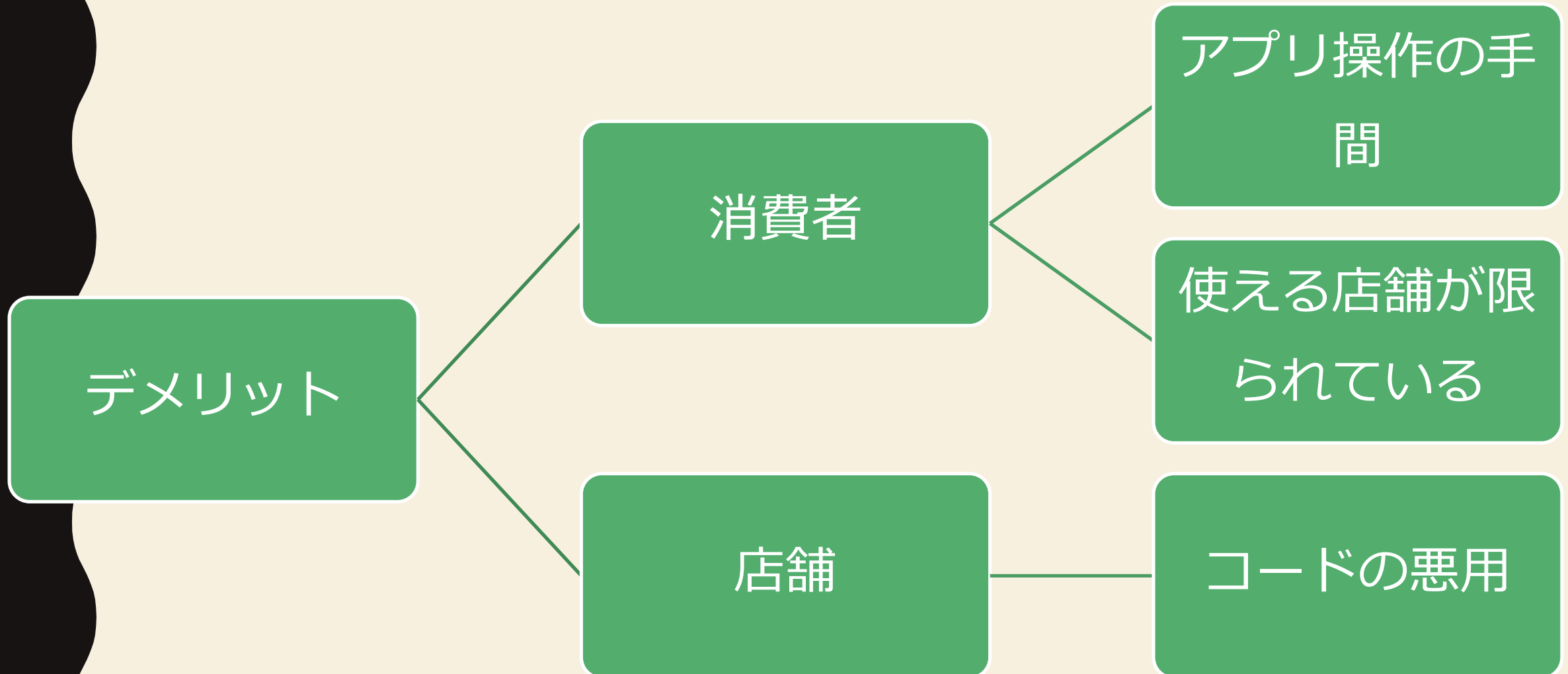
維持費

- ・ 決済手数料

QRコード決済のメリット・デメリット



QRコード決済のメリット・デメリット



④モバイル決済サービス

カードリーダーや端末を使用

例.SQUARE,AIRPAY,COINEY,楽天PAY

SQUAREとは...

キャッシュレス決済を行うサービス
モバイル端末とカードリーダーを使用

SQUAREのメリット・デメリット

メリット

- 初期費用が安い
- すぐに導入できる
- 入金サイクルが早い

デメリット

- 決済手段が少ない
- 暗証番号が使えない
- 分割払いが不可能

まとめ①

- 現在の日本のキャッシュレス決済比率は圧倒的に低い
- メリットはあるがリスクも存在する
- 他国を例に日本で導入できる制度・普及案がある
- まだ浸透していない決済サービスがある

まとめ②

生涯解決できないデメリットもあるが、
それを上回るだけのメリットが
多々あるので、引き続きキャッシュレス化を
推進していく必要性があると感じた。

ご清聴ありがとうございました。
ございました。

参考文献①

- 経済産業省 キャッシュレス研究会の方向性 資料
- 経済産業省キャッシュレスビジョン
- 世界銀行「Household final consumption expenditure(2015年)」及びBIS「Redbook Statistics(2015年)」の非現金手段による年間決済金額から算出※中国に関してはBetter Than Cash Allianceのレポート
- 平成28年度商取引適正化・製品安全に係る事業「観光地におけるキャッシュレス決済比率の普及状況及び加盟店におけるクレジットカードにかかるセキュリティ対策の実施状況に関する実態調査」
- 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」第45回
- 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」(2018年3月調査)

参考文献②

- アントフィナンシャル社検討会発表資料
- 野村総合研究所キャッシュレス化推進に向けた国内外の状況資料
- iimediaResearch資料
- JCB「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査」
- 中国におけるキャッシュレス化の現状と課題
- 韓国銀行「2017年支払手段別利用形態に関する調査結果」
- 韓国の動き 中尾睦